

麦作情報 No. 4

令和4年3月25日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
3月	1	8.0	8.2	13.0	13.1	3.1	3.6	21.6	12.5	23.4	32.8
	2	8.4	7.4	13.4	14.1	3.5	0.8	22.4	0.0	24.6	47.7
	3	9.1	16.3	14.3	22.1	4.0	10.9	24.9	2.5	25.5	27.0
	4	9.9	11.4	15.1	16.5	4.7	7.3	27.9	66.5	25.6	17.8
	5	10.4	7.4	15.6	11.3	5.4	4.2	27.4	32.5	26.2	16.3
	6	11.2		16.4		6.1		31.0		33.2	

- 平均気温は、2月中旬から3月2半旬まで低く推移していたものの、3～4半旬は急激に温度が上昇し、平年より7.2～1.5℃高くなった。
- 降水量は、2月6半旬～3月3半旬まで少なく推移したものの、3月4～5半旬にまとまった降雨に見舞われた。3月5半旬までの3月の降水量は92%となった。
- 日照時間は、3月4～5半旬はやや少なかったものの、平年よりも多照傾向で推移している。

2. 生育概況

- 12月下旬から2月下旬にかけて低温傾向で推移したため、生育は平年並み～やや遅くなっていたが、3月中旬から気温の急激な上昇とまとまった降雨があり、停滞していた生育が進んだ。3月下旬に入ると、再び気温が平年並みに低くなったことから、出穂は平年並みになる見込み。
- 3月下旬以降のまとまった降雨により、圃場内で長時間にわたって滞水している圃場が見られる。
- 気温上昇や降水量増加に伴い、3月上旬から大麦網斑病が上位葉に進展している圃場が見られる。

品種	地区名	播種期 (月/日)	出穂期※ (月/日)
サチホゴールド	南波多町	11/18	3月下旬
		11/20	—
	松浦町	11/27	—
煌二条	二里町	11/17	3/26頃
	有田町	11/27	—

※予想値であり、気象条件や圃場条件によって前後するため注意。

3. 今後の管理

1) 肥培管理

- ・12月上旬以降播種の圃場は、茎立ち期を迎えている。穂肥を施用していない圃場は速やかに施用する。

※地力がある圃場（堆肥連用田など、令和3年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

2) 排水対策

- ・本年は、播種後～3月3半旬まで乾燥状態が続き、平年よりも麦踏や土入れができた圃場が多かった。
- ・3月18日以降は、まとまった降雨が続いており、排水不良田では長時間の滞水が続いている。
- ・今後も降雨が続く場合は、湿害による下葉の黄化や根痛みにより枯れ熟れし、成熟期が早まる恐れがある。
- ・湿害による減収を回避するため、排水口と畝溝がつながっているか確認し、場合によっては排水溝の増設や障害物の除去を行い、滞水回避に努める。

3) 雑草防除

- ・近年、畦畔などのカラスノエンドウの発生が多くなっており、本年も圃場によってはすでに発生が確認されている。
- ・カラスノエンドウは収穫時に混入し、異物混入となる危険性が高いため、早めにアクチノール乳剤による防除を徹底する。

【防除薬剤使用基準】

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグ ・カスノヱ ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml /10a	70～100L /10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグ、カスノヱに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。 ・トギミツネホクには効果が低い。

4) 病害虫防除

○網斑病

- ・網斑病は、葉や茎に網目状の模様の病斑を示す。（下写真右）
- ・網斑病が多発し、上位葉が枯死すると収量が**3割程度減収**する可能性がある。
- ・本年は、12月27日に初発が確認されたものの、播種後から2月中旬まで低温で推移したため、少ない発生となっていた。
- ・3月中旬から気温が上昇し、まとまった降雨が続いたことから、上位葉への進展が確認されている。（下写真左）
- ・網斑病が上位葉へ進展している圃場は、早めにチルト乳剤による防除を実施する。

（※チルト乳剤の大麦に対する使用回数は1回までなので、農協のヘリ防除を利用する場合は、使用回数を超えないように注意する。追加で防除を行う場合は、シルバキュアフロアブルを散布するなどの対応を検討する。なお、チルト乳剤およびシルバキュアフロアブルの使用にあたっては、網斑病に対する無人航空機による散布の登録はないことに注意する。）



3/23 時点の網斑病の進展（東部）



大麦網斑病の病斑

【防除薬剤使用基準】（対象作物は大麦）

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回	散布
シルバキュアフロアブル	網斑病	2000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回	散布

網斑病の防除適期

麦種	全茎数の40~50%が出穂した日		出穂期 0	穂揃期 +5日	全茎数の80%が出穂した日（出穂期から概ね2~3日後）		
	+10日 +15日 +20日 +25日						
大麦	←————→						

ただし、
病斑が上位葉に
進展している場合は
直ちに防除を実施

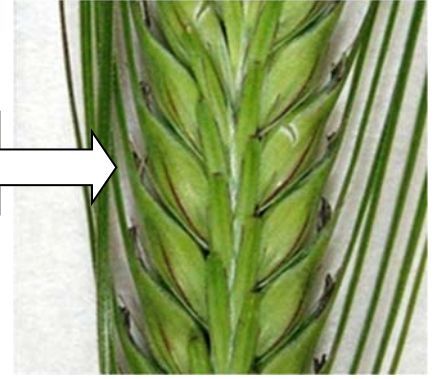
注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

○赤かび病

- 麦の品質や収量の低下を防ぐため、薬剤防除を徹底する。
- 大麦の防除時期は、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）頃となる。



葯殻が、大麦の芒の下に出てくる時期(出穂期の約2週間後)
 ※葯殻とは開花受粉後に外側に押し出される葯の残骸のことである

- 赤かび病が多発生の場合は、葯殻抽出期防除の1週間後に2回目の防除を実施する。
 - また、気温の上昇に伴い、出穂から開花や葯殻抽出までの期間は早まるので、注意する。
- 必ず農薬登録を遵守し、**収穫前日数に留意して**農薬散布に努める。

※莖立ち期にチルト乳剤を散布した圃場では、薬剤の選定に注意する。

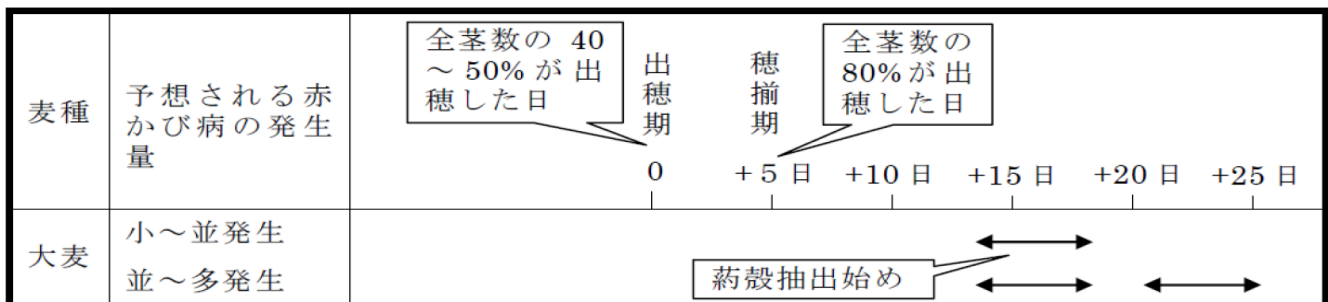
(チルトやトップジンをすでに散布した圃場で、2回目の赤かび病防除を実施する場合は、シルバキュアフロアブルなどの薬剤を選定する必要がある。)

【防除薬剤使用基準】（対象作物は大麦）

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤	赤かび病	1000 ~2000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回	散布
		8倍	800ml			無人ヘリ
シルバキュア フロアブル	赤かび病	2000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回	散布
		16倍	0.8L			無人ヘリ
トップジン M水和剤	赤かび病	1000 ~1500倍	60~150L	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期 以降は1 回以内)	散布
トップジン M粉剤DL		—	4kg	収穫14日前まで		散布
トップジン Mゾル		1500倍	60~150L	収穫14日前まで		散布
		8倍	0.8L	収穫21日前まで		無人ヘリ

- **トップジンM水和剤は、収穫前30日までの使用となっているので注意する。**

赤かび病の防除適期



- 注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。
 注2) 小麦の開花期とは50%の穂が開花、開花最盛期とは80%の穂が開花した日。
 注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法（収穫前日数）に特に注意する。
 注5) 矢印は防除適期を示す。

R4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（伊万里）

西松浦農業改良普及センター

